



事業者間・地域間における データ連携等を通じた観光・地域経済活性化実証事業

成果報告書

令和5年度「日本観光振興デジタルプラットフォーム」構築事業 【抜粋版】

日本観光振興デジタルプラットフォーム推進コンソーシアム

公益社団法人日本観光振興協会、株式会社マーケティング・ボイス、ソフトバンク株式会社

観光予報プラットフォーム推進協議会

公益社団法人日本観光振興協会（幹事）、株式会社JTB、株式会社オープントーン、KNT-CTホールディングス株式会社、株式会社日本旅行、株式会社プログウォッチャー、三井住友カード株式会社、株式会社JSOL、Near Intelligence,Pte. Ltd.、ジョルダン株式会社

2024年2月13日

目次

1. はじめに
2. 地域の現状・課題・解決
 1. 全国エリア
 2. 実証地域：群馬県・埼玉県・千葉県・長崎県
3. 実証事業
 1. 目指す姿
 2. 事業の全体像
 3. 現状・課題・実証内容
 4. 目標設定
 5. 実証1 全国観光DMP・高度化地域DMP
【基本機能】の構築・活用
 6. 実証2 全国観光DMP・高度化地域DMP
【基本機能】による地域と連携した実証事業
4. 総括
 1. 成果
 2. 全国エリア
 3. 実証地域：群馬県・埼玉県
千葉県・長崎県
5. 実施体制
 1. 体制図
 2. 主体となった人材
6. おわりに

別冊 ・日本観光振興デジタルプラットフォーム機能紹介
・地方創生カレッジ 講義資料
観光データ分析と計画作成
第1・2・3・4ユニット 2

3.実証事業

2.事業の全体像

令和4年度よりの観光DXの取組みにて、全国の観光情報の整備・一元化により、情報流通拡大や観光情報を媒介した事業者商品との連携のための基盤機能構築を行いました。

A) 地域の観光マーケティングデータの活用によるデータ戦略

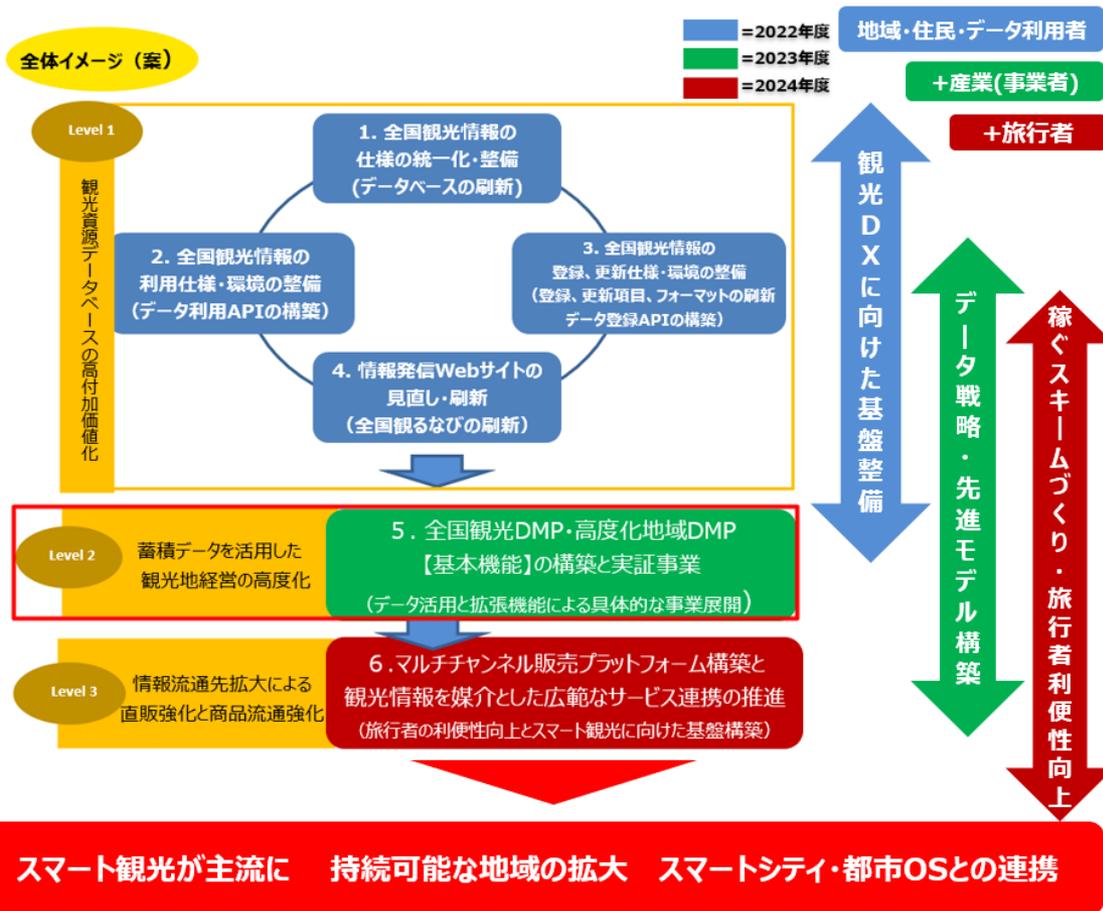
- ・地域にとって有益なマーケティングデータを選別し、地域に平等に提供する。
- ・マーケティングデータの単なる可視化でなく、担当者がスキルに関わらず「具体的な施策・打ち手」を得られる仕組みを提供する。

B) 観光地が稼ぐスキームづくり(来年度以降)

- ・観光情報データにマーケティングデータを付加し提供することで、地域や観光事業者が効果的な情報発信や事業の高度化に活かせる仕組みを提供する。
- ・各データの精度を高めるとともに高付加価値を図ることで、利用価値の高いデータとして整備・流通させる。

C) 地域の自走・持続化(来年度以降)

- ・地域担当者の利用者視点に立ち、使い勝手がよく利用メリットを感じられる利用スキームを構築する。



2.地域の現状・課題・解決

1.全国エリア

現状

地域の観光DX、デジタル化については、一部、データ基盤となるデータ・マネージメント・プラットフォーム（DMP）の構築を行う地域が増えてきているが、導入費・運用費等の課題があり、全国的な活用までには至っていません。観光地づくりに必要な基本的なデータを格納した地域共通、連携が可能なDMPによる具体的な施策への誘導が必要な状況です。

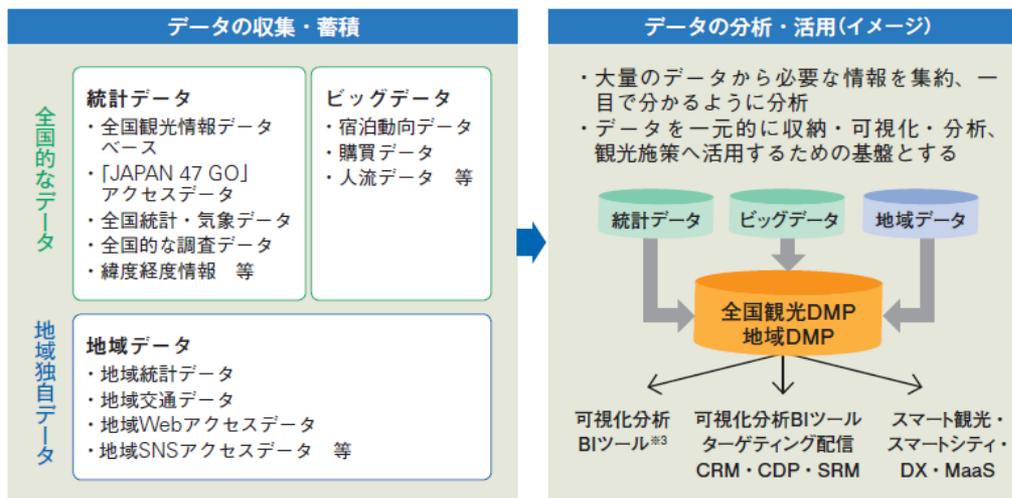
地域がデータの分析・活用をすすめるにあたり、重要となるDX、デジタルの知識を持つ人材不足が喫緊の課題であり、人材育成の支援体制や使いやすいDMPの提供も重要です。

課題・解決

データの活用による観光地経営の高度化を目的に、地域が共通でデータを利用できる「全国観光DMP」とデータ可視化・分析のBI機能を持つ「高度化地域DMP【基本機能】」によって、導入費・運用費等の課題解決を目指し、全国の観光関係者にデータ活用の推進を図ります。

取組エリア

47都道府県



3.実証事業

1.目指す姿

目指す姿

データの活用による観光地経営の高度化を目的に、地域が共通でデータを利用できる「全国観光DMP」とデータ可視化・分析の「高度化地域DMP【基本機能】」によって、導入費・運用費等の課題解決を目指し、全国の観光関係者にデータ活用の推進を図る。

方向性1

全国観光DMPを用いた地域の必要とするマーケティングデータの基礎整備と可視化

方向性2

全国観光DMPを用いたデータ戦略・先進モデル地域の構築

3.実証事業

3.現状・課題・実証内容

■ 地域の現状・課題

地域のデータ活用、DMPへの関心、取り組みの状況と課題を把握し、地域のデータ活用への取り組みレベル・リテラシーの違いを区別した上で各ターゲットに対して、本実証での取り組みを説明します。

取組 レベル	低 (ターゲット：中)	中(ターゲット：高)	高 (ターゲット：中)
	無関心地域	活用意欲地域	積極的活用地域 (自型高度活用地域)
現状	一部、統計データの確認程度は行っているが、それ以上のデータ活用に至っていない状況。	Webサイト分析は行っているが、データ分析・活用の積極的な取り組みまではできていない。 ※DMP導入やビッグデータ分析を行ったが、継続できない場合も含む。	マーケティングデータを、観光地経営におけるターゲット戦略やポジショニング等の政策立案、マーケティング施策に積極的に活用している。 自発的にOODAループを効率的かつ円滑に回すことができる。
対象地域	多 小規模な市町村・DMOなど	中～多 都道府県・市町村・DMO	極少 例) 静岡県・鳥取県・二セコ町・白馬村・下呂市 等
課題	<ul style="list-style-type: none"> データの活用用途、メリットがイメージできない。 データスキルを持つ人材不足。 	<ul style="list-style-type: none"> 独自に、継続的なビッグデータやBIツールを導入する予算がない。 専任のデータ分析担当者がいない。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域独自のデータを継続的に蓄積しておらず、より高度なデータ連携を図ることができない。 スマートシティ、都市OS等、有益なAPIとの連携ができていない。 顧客IDとの連携、MA、CRM、ターゲティング広告配信システム等マーケティングツールと連携させての効果的な活用イメージできない。
必要なデータ	<ul style="list-style-type: none"> 統計データ全般 Webサイト分析(Googleアナリティクス) 	<ul style="list-style-type: none"> ビッグデータ (宿泊・人流・購買) 地域交通データ 地域商品購買データ 	<ul style="list-style-type: none"> ターゲティング広告配信システムと携可能なビッグデータ (宿泊・人流・購買) スマート観光・MaaS連携用の旅行者ID
実証内容 事業ゴール	データの具体的な活用手法・メリットをイメージでき、「全国観光DMP」による基本的なデータ確認ができる。 ⇒中：「活用地域」へのレベルアップ	「全国観光DMP」を活用して、地域の観光政策やマーケティング戦略・施策検討時に、データを利用することができる。 ⇒高：「積極的地域」へのレベルアップ	「全国観光DMP」の提供する仕組みを使って、都市OS、広告管理ツールやMA、CRM等と連携させ、高度な戦略・施策検討や、各種マーケティング施策のアクションにデータを活かすことができる。

3.実証事業

3.現状・課題・実証内容

実証2

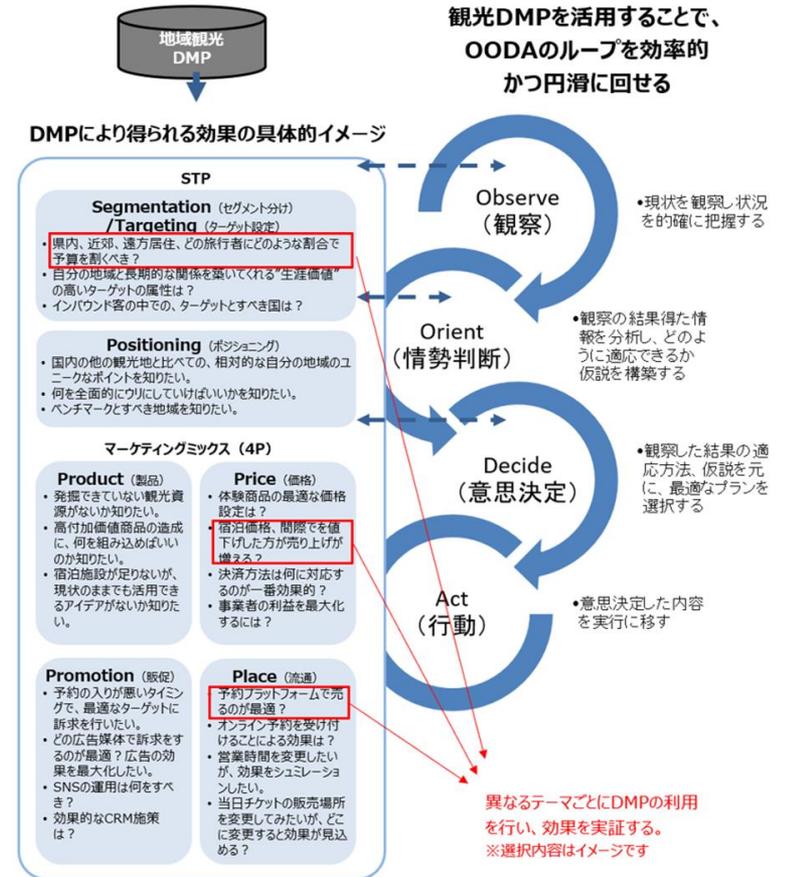
全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】による地域と連携した実証事業

- 全国の自治体・観光協会及び観光産業事業者それぞれが、効率化かつ戦略的な事業推進と目的達成ができることを目指す。
- DMP活用のモデル：Observe(観察)、Orient(情報判断)、Decide(意思決定)、Act(行動)によるOODA(ウーダ)ループを活用
- 実証フェーズは、日観振事業の「観光DXに資するアドバイザー派遣事業」と連携し、4県を選定し、2か年、伴走支援を行いながら、先進モデルを構築する。

ターゲット：取組レベル 中・高の地域

全国観光DMPによるデータの可視化、ツール提供
→ データが分析できるマーケティング人材が地域ごとに育成される。

→ 得たデータを個別の政策・施策に利用することができる。



3.実証事業

4.目標設定

KGI

ゴール 成功事例の創出を通じて、データ活用の「積極的地域」を増やす

目標値 全国観光DMPを活用した都道府県：2都道府県74市町村

実証内容

概要

目標

頁

実証1

KGI

全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】の構築・活用

データの活用による観光地経営の高度化を目的に、地域が共通でデータを利用できる「全国観光DMP」とそのデータ可視化・分析するBI機能を持つ「高度化地域DMP【基本機能】」を構築し、データの活用推進を図ります。

地域の観光事業計画や個別のマーケティング戦略・施策等の策定に際し、DMPの活用

- ・自治体数：2都道府県74市町村
- ・活用セミナーの開催：3回

P.21

実証2

KPI

全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】による地域と連携した実証事業

地域及び地域の事業者が自発的にマーケティングデータを分析・活用し、独自のターゲット戦略やポジショニング、マーケティング施策に活用し、OODAのループを回すことを目指す。

自治体・観光協会・DMO等と連携した実証地域

- ・成功事例：4件の創出

P.38

3.実証事業

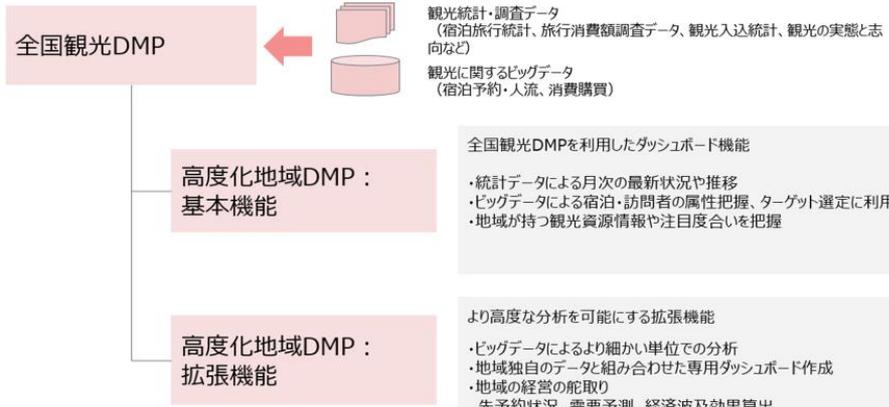
5.実証1 全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】の構築・活用

(1) 全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】の構築

地域が共通でデータを利用できる「全国観光DMP」とそのデータ可視化・分析するBI機能を持つ「高度化地域DMP【基本機能】」を構築し、具体的なデータの活用を支援します。

【全国観光DMPと高度化地域DMP【基本機能】の機能と搭載データ】

全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】の機能イメージ



2023年度構築

2024年度構築

■全国観光DMP搭載データ

統計データ

- 宿泊旅行統計（市町村別）
 - 延べ宿泊者数（総数・国内居住地・国籍）
 - 定員稼働率、利用客室数
- 旅行・観光消費動向調査（市町村別）
- 訪日外国人統計調査（市町村別）
- 入出国数統計：出入国者数（市町村別）
- RESAS：人口・産業（都道府県別）
- デジタル観光統計オープンデータ（市町村別）
 - 観光入込客数（国内）の統計

ビッグデータ（観光予報PF）

- 宿泊：居住地・国籍別宿泊者数（市町村別）
 - 年代、旅行形態、価格帯、予約タイミング
- 人流：国内・インバウンドの来訪者、国籍別動向（市町村別）
- 消費：キャッシュレス消費単価（都道府県別）
- 観光：全国観光情報データベース（JAPAN 47 GO）（市町村別）
- Web：JAPAN 47 GOアクセスの傾向・属性（都道府県別）

調査データ（日本観光振興協会）

- 観光の実態と志向（都道府県別）
 - 宿泊観光旅行の満足度
 - 来訪回数
 - 再来訪（リピート）意向
 - 旅行先での行動
 - 旅行での費用割合
 - 利用交通手段
- 数字で見る観光
 - 観光レクリエーション施設数
 - 観光基礎統計
 - 日本全体の観光動向（国内旅行、訪日旅行）

3.実証事業

5.実証1 全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】の構築・活用

地域を対象にしたヒアリング、調査から要望の高いデータや機能の導入、及びテストリリース、ワークショップ開催時、実証4県と操作確認により、課題をとりまとめ随時改善を行い、UI・UXに反映してきました。それにより使いやすいツールとし、通常業務での継続利用を目指す。

【全国観光DMPと高度化地域DMP【基本機能】の4つのダッシュボード機能】



全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】の機能イメージ

ダッシュボード①：地域の観光概況

3指標の最新値と
予約状況（3ヶ月先）
コロナ前後の対比



活用イメージ

- 宿泊・来訪・消費の現状把握
- コロナ前後の来訪者の居住地の変化の把握
- 今後3か月の予約状況の把握

ダッシュボード②：地域の観光分析（来訪者分析）



地域に訪れる国内・
インバウンドの旅行客を把握

活用イメージ

ターゲットの選定

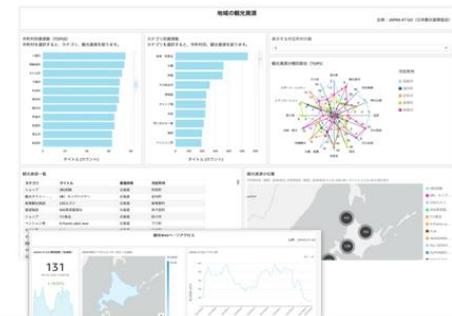
- どの居住地からよく訪れているか？
- どのタイミングで良く訪れているか？
- 居住地ごとの年代・性別・参加形態は？

商品・プロモーション時期の選定

- 価格帯は？
- 予約タイミングはいつ？

ダッシュボード③：地域の魅力分析

地域が保有する観光
資源情報を数値化



活用イメージ

地域の観光資源の再確認
・都道府県、市町村の観光資源の割合
・カテゴリ別の割合や地図上でどの地点に資源が
集積しているか？を確認

オンライン上の関心をもとに隠れた資源の発見

ダッシュボード④：他地域との比較



他地域との比較を通じて、
自地域の位置付けを知る

主な比較項目

宿泊・人流：延べ宿泊者数や訪問者数を直接比較
居住地・国籍：居住地の違い確認
旅行者の属性：旅行者の特性や背景を比較
観光資源：地域の魅力や資源を見比べ
アンケート結果：訪問者の意見や印象を比較

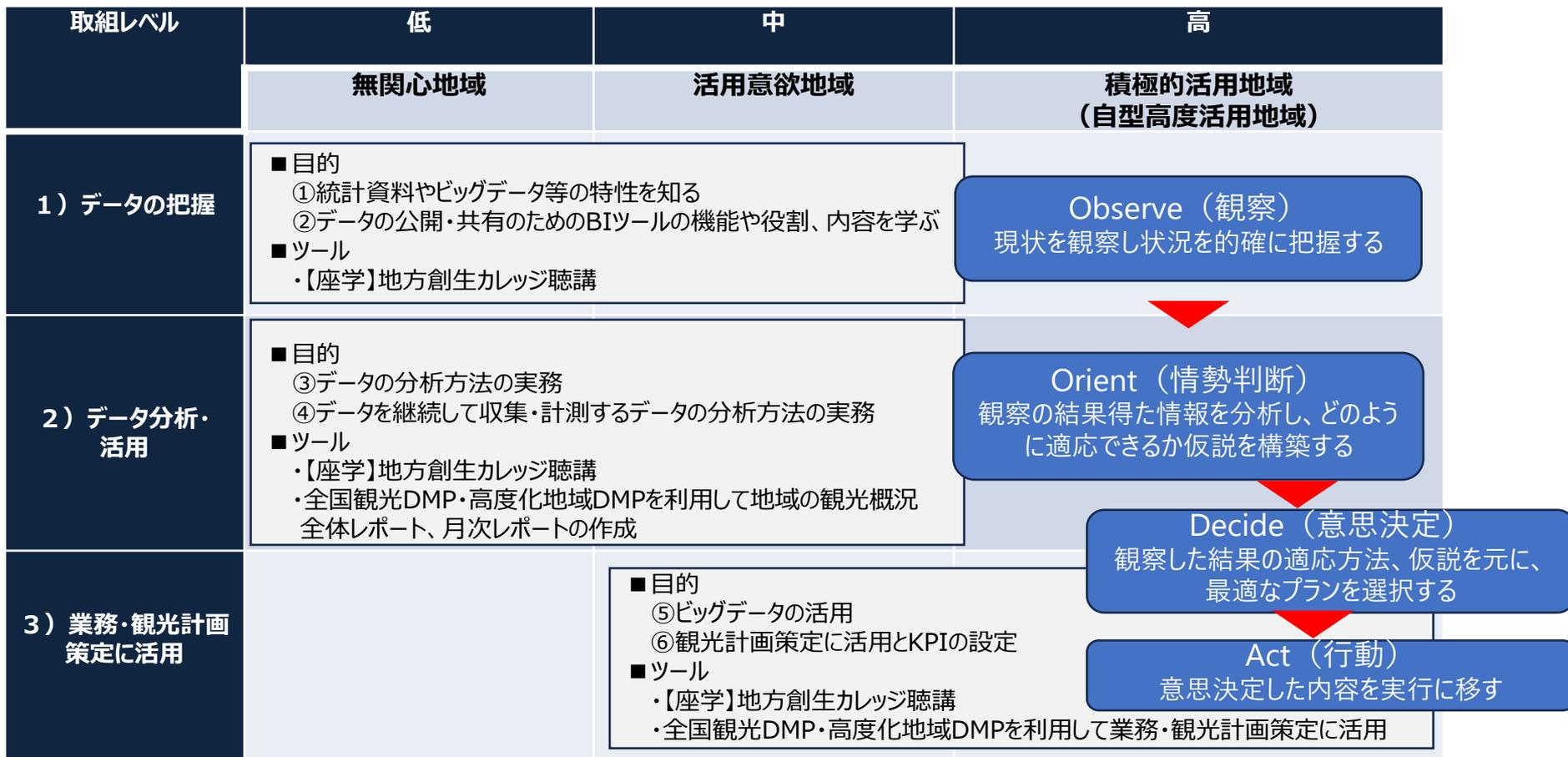
3.実証事業

5.実証1 全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】の構築・活用

(2) 取組レベル別の活用プログラムの提案

データの具体的な活用用途・メリットをイメージできることを目的に、データ参照を行いながら、効率的に業務を支援します。

【取組レベル別活用プログラム例とOODAループの関係性】



3.実証事業

5.実証1 全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】の構築・活用

1) データの把握 【取組レベル：低・中】

Observe（観察）現状を観察し状況を的確に把握する

基本となる統計資料やビッグデータ等の特性を知り、データの公開・共有のためのBIツールの機能や役割、内容を学びます。

■ ツール：地方創生カレッジ

運営：公益財団法人日本生産性本部 本講座受託：公益社団法人日本観光振興協会

観光データ分析と計画作成 第2ユニット 観光現象を理解するためのオープンデータと分析プラットフォーム

講師：清水哲夫 氏 東京都立大学都市環境学部観光科学科 教授

公益社団法人日本観光振興協会総合調査研究所 所長

- 内容： ①把握したい観光現象と対応するデータ種別 ②地域でのデータ利用の検討手順
 ③観光庁が実施する観光統計 ④中央省庁が実施するその他の観光関連統計
 ⑤観光分析プラットフォームの代表例 ⑥地域における分析事例

主なスライドを紹介

1. 把握したい観光現象と対応するデータ種別

	観光産業の活動実態把握	観光客の周遊行動把握	観光客の消費行動把握	観光客の評価把握
統計データ	○現象を広域・多時点での把握可能 △現象の生じた要因は直接的に把握不可能	○現象を広域・多時点での把握可能 △現象の生じた要因は直接的に把握不可能	○現象を広域・多時点での把握可能 △現象の生じた要因は直接的に把握可能	○現象を広域・多時点での把握可能 △現象の生じた要因は直接的に把握不可能
アンケート調査データ	○現象の生じた要因を直接的・詳細に把握可能 △広域・他時点での実施が困難	○行動の要因も直接的・詳細に把握可能 △回答の信頼性・精度にやや問題あり	○消費の要因も直接的・詳細に把握可能 △回答の信頼性・精度におおきな問題あり	○評価の背景を直接的・詳細に把握可能 △広域・多時点での実施が困難
位置情報データ	×	○エリアの時刻別滞在密度や個人の移動軌跡を把握可能 △行動の要因は直接的に把握不可能	解像度は荒いが信頼性が高い 量は少ないが要因が把握できる	
目的地検索データ	×	○エリアの時刻別滞在密度や個人の移動軌跡を把握可能 △実際の訪問は必ずしも保証されない	質の差が大きいが大量である	
SNSデータ	○活用内容を多様かつ広範囲に把握可能 △書き込み頻度、内容等の主体間のバラツキ大	○個人の滞在場所や行動を直接把握可能 △書き込み頻度、内容等の個人間のバラツキ大	○消費項目を具体的に把握可能 △書き込み頻度、内容等の個人間のバラツキ大	○細かい評価要因を把握可能 △書き込み頻度、内容等の個人間のバラツキ大
決済データ	○高精度な売上データが把握可能 △現金決済部分は把握不可能	○カード決済による訪問エリアの把握が可能 △決済を通さない活動は把握不可能	○消費項目と金額の直接的な把握が可能 △現金決済時の把握は不可能	×

3. 観光庁が実施する観光統計

地域の観光生産額を把握する3要素

$$\text{観光総生産額} = \text{観光入込客数} \times \text{一人当たり観光消費額} \times \text{域内調達率}$$

調査名	開始年	調査目的	調査対象	主な調査項目	調査方法
旅行・観光消費動向調査	2003年度	旅行・観光における消費実態の把握	日本人	旅行回数、旅行時期、消費内訳	26,000人を無作為抽出、年4回実施
訪日外国人消費動向調査	2010年	訪日外国人客の消費実態の把握	外国人	旅行回数、旅行時期、消費内訳	全国27空港港で139,856人を抽出、年4回、全国・地域・クルーズの3調査
宿泊旅行統計調査	2007年	宿泊旅行の全国規模の実態の把握	日本人 外国人	都道府県別居住地別月別延・実宿泊数	全宿泊施設からの申告値から推計
共通基準による観光入込客統計	2010年	観光入込客数と消費額の全国規模の実態の把握	日本人	都道府県別四半期別観光入込客数・属性別平均消費額	観光地点の入込客数の申告値と、観光地点での訪問地点数や消費額に関するパラメータ調査を組み合わせ推計
観光地域経済調査(継続予定なし)	2012年度	観光産業の観光売上割合と生産構造等の実態の把握	事業所	売上額の観光割合、支払先地域別割合	904地域に立地する約9万事業所

- ・ 共通基準による観光入込客統計の枠組みで実施される都道府県の独自統計で、自治体別、地域、主要施設別の入込客数や平均消費単価が公表されていることもある
- ・ 宿泊旅行統計調査は都道府県別ではあるが、訪日外国人を含め宿泊者数を月別に把握可能
- ・ 域内調達率を把握可能な統計は現時点では存在しない

3.実証事業

5.実証1 全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】の構築・活用

2) -2 データの分析・活用 【取組レベル：低・中】

Orient（情勢判断） 観察の結果得た情報を分析し、どのように適応できるか仮説を構築する

【地域の観光概況を把握する全体（年次）レポートの作成】

DMPを活用して、地域の観光概況を定期的に取り得し、観光客の動向を把握し、施策に活用します。

■ ツール：全体レポート 例) 群馬県

内容：①地域の観光を取り巻く環境 ②地域の観光概況 ③地域の観光分析 ④地域の魅力分析

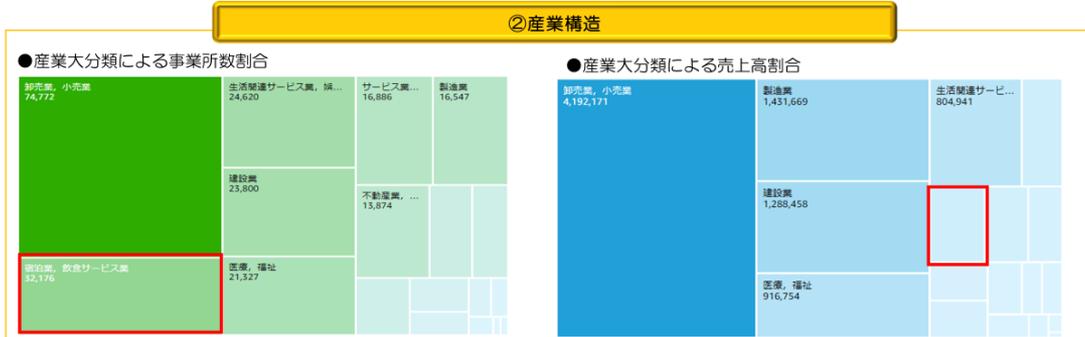
I 地域の観光を取り巻く環境（群馬県）

2. 地域の人口・産業

2023年12月現在



群馬県の現在（2020年）の総人口は約194万人のうち生産年齢人口は約110万人と56.5%、老年人口は約58万人と29.7%、年少人口は約22万人と11.6%となっている。
今後の総人口は減少傾向にあり、2045年には2割減少の155万人と予測されている。また、生産年齢人口も減少され、総人口における占め率も50.5%と低くなると予測されている反面、老年人口は増加し、総人口における占め率は39.4%と大きくなると予測されている。



県内の総事業所数は377,798所。卸売業・小売業が最も多く、次に製造業が続いている。うち観光関連事業所である「宿泊業、飲食サービス業」は44,329所と11.7%の占め率と全体の中で3番目に大きい産業区分となっている。

県内の売上高が最も大きい産業区分は事業所数同様、卸売業・小売業が最も大きく、次に製造業が続いている。
反面、事業所数では3番目に大きい産業区分であった「宿泊業、飲食サービス業」は県内全体の売上高のわずか1.8%と占め率が小さくなっている。

3.実証事業

5.実証1 全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】の構築・活用

■ ツール：全体レポート 例) 群馬県

内容：①地域の観光を取り巻く環境 ②地域の観光概況 ③地域の観光分析 ④地域の魅力分析

I 地域の観光を取り巻く環境（群馬県）

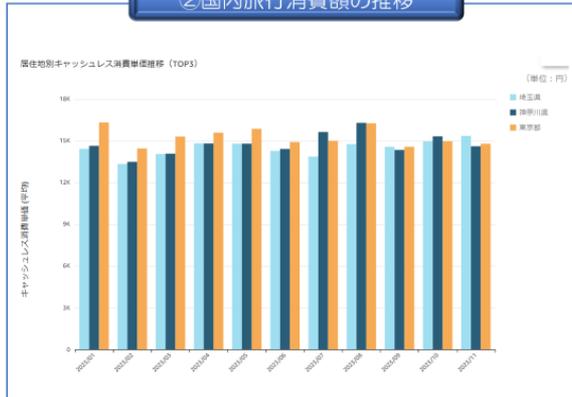
2023年12月現在

1. 日本の観光概況

①国内旅行者数の推移



②国内旅行消費額の推移

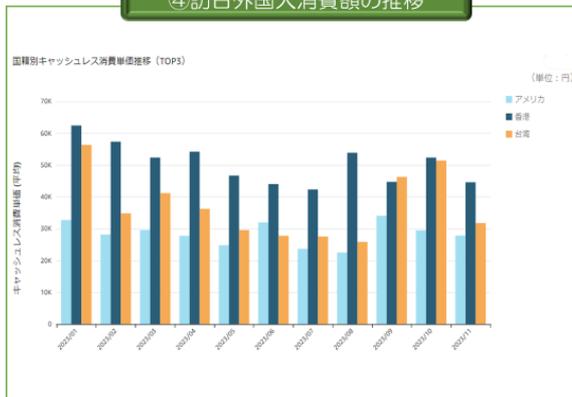


人流データによる訪問者数ではデータ取得開始時（2021年1月）から平均して毎月約166万人の来訪者であり、2023年1月～12月までの平均は毎月約179万人と増加傾向にある。

③訪日外国人数の推移



④訪日外国人消費額の推移



2023年（1月～11月）に群馬県を訪れた外国人旅行者数は111,263人で延べ人数では186,291人回となっている。国籍別ランキングではアメリカが1位となっており、次に台湾、ブラジル、オーストラリアが続いている。

3.実証事業

5.実証1 全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】の構築・活用

2) - 3 データの分析・活用 【取組レベル：低・中】

Orient (情勢判断) 観察の結果得た情報を分析し、どのように適応できるか仮説を構築する

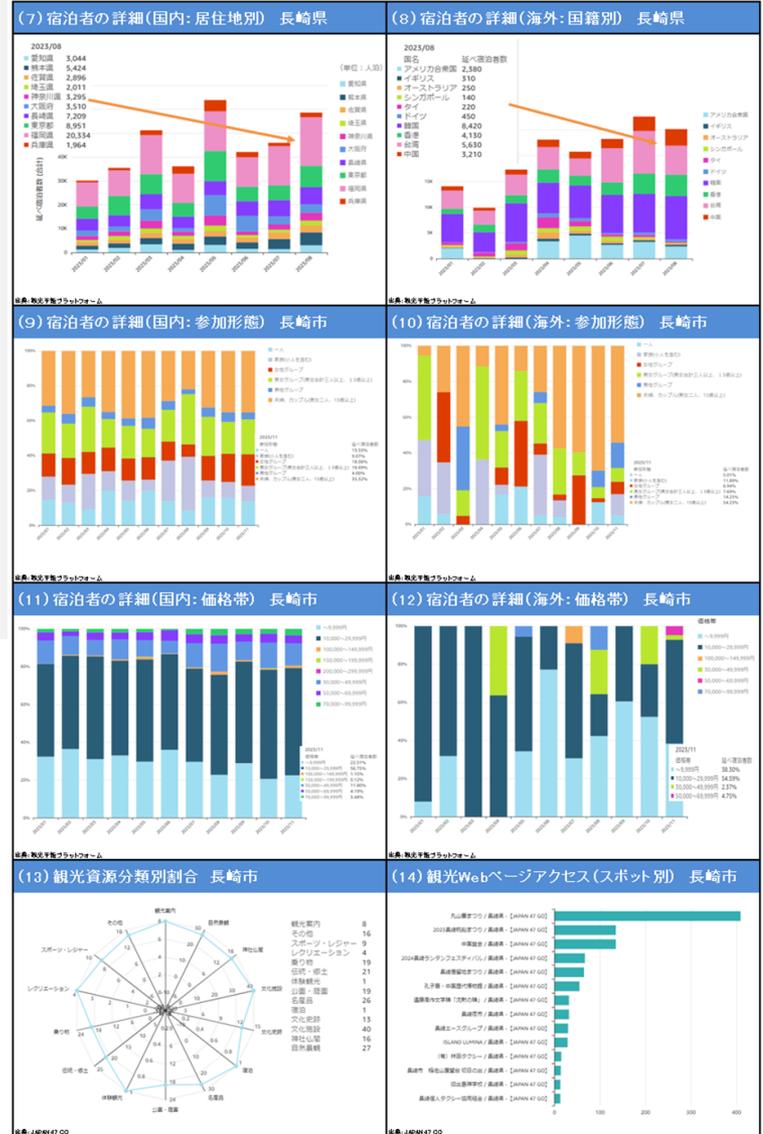
【継続的なデータ収集・計測のための 月次レポートの作成】

DMPを活用して月次で取得可能なデータを蓄積し業務をすすめながら、データの比較、確認します。月毎の変化を把握し、データ根拠に戻づく戦略、OODAループを意識します。

■ ツール：月次レポート 例) 長崎県

内容：・宿泊者の動向

- ・国内来訪者の動向
- ・海外来訪者の動向
- ・宿泊予約状況
- ・宿泊者の詳細 (属性)
- ・観光資源分類割合
- ・観光Webページアクセス動向



3.実証事業

5.実証1 全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】の構築・活用

3) - 2 業務・観光計画策定に活用 【取組レベル：中・高】

【観光振興計画の策定】DMPを活用して、現状分析・課題・方向性をとりまとめ、施策の仮説を作成します。

戦略をすすめる上でも、個々業務のOODAループを実施することで、データ戦略の継続、確立を目指す。

Decide (意思決定)
観察した結果の適応方法、仮説を元に、最適なプランを選択する



Act (行動)
意思決定した内容を実行に移す

【データ根拠に基づく計画策定 例) 石川県小松市】

【参考とするデータの例】

KPI(例) 入込観光客数・観光消費額・WebサイトPV数・地域経済循環率		【珠玉と歩む物語】小松～時の流れの中で磨き上げた石の文化～		
共通ストーリー(案)	① 小松にしかない「石の文化」STORY 2300年の間、各時代のニーズに変化し、繋いできた文化の歴史 ② 小松！もう一つの「石」文化 STORY 加賀の経済を支えた「鉱山」、「JAPAN KUTANI」を生んだ「陶石」 ③ 小松の「加賀絹」生産と近世小松の文化醸成 STORY ④ ものづくりのまちから乗りもの集う「小松」の新 STORY ⑤ 「北前船」がもたらす食文化と発酵食文化 STORY			
目指すべき姿	文化と産業が融合し、国内外に発信する小松市 住みやすい環境保持と観光による交流人口増加の良い関係			
方向性	オープンファクトリー「GEMBA」プロジェクトの実装 九谷焼に歌舞伎文化・織物・食・酒・石・瓦・茶・畳・街道を追加、拡大			
主なターゲット	2021年度(実証段階):個人客、小規模の教育旅行・企業視察 2022年以降:教育旅行、企業視察、国内外の小規模会議(MICE)			
課題	取組体制	コンテンツ整備 情報発信	受入環境整備	インフラ整備 (ソフト)
取組事業	マーケティング・戦略	基本コンテンツ(コース)構築 商品造成	共通ツール整備	まちあるき整備(サイン)
	WS連携 事業創造	GEMBAプラットフォーム(Webサイト)構築 仕様検討 ワンストップ窓口 予約、決裁、EC	事業者見学 行程整備	まちあるき アプリ構築
	マネージメント	Web連動プロモーション SNS	インタープリター 育成支援 テキスト作成	二次交通整備
	情報共有 勉強会		インバウンド対応	サイン・アプリ 活用の 防災対応 (住民・訪問者)

■ 地域の観光概況
人口・産業
観光客の推移
■ 地域の魅力分析
観光Webページアクセス
観光の実態と志向

■ 地域の観光概況
産業
■ 地域魅力分析
地域の観光資源

■ 地域の観光概況
産業
■ 地域魅力分析
観光の実態と志向

■ 地域の観光概況
訪問者の各属性
■ 地域の観光分析
国内外人流分析
■ 地域の魅力分析
観光の実態と志向

随時、業務の中で
該当データを参考に
しながら進める
↓
OODAループを実施
↓
効果検証

3.実証事業

5.実証1 全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】の構築・活用

■ 実証1のまとめ

KGI・自治体数：2都道府県74市町村

10月末の自治体・観光協会へDMPのリリース後、活用した14府県36市町村がデータ確認・比較等具体的な活用に至った。なお、全国の1741の市区町村に都道府県と同様に案内したが、参加率は低く、KGI達成へ至らなかった。一方、都道府県の活用が14と意識が高く、DMPを把握し、管轄の市町村にも共有したいとの声が多かったことから、来年度以降、都道府県・都道府県観光協会、当協会8支部と連携した定期的なセミナーを開催予定。

DMPのWebサイトアクセス動向分析の3ヶ月間の結果はユーザー518名、3643PV、一回当たり7PV、平均滞在時間2分34秒と長めの結果となったことから、地域のデータ活用に繋がった。

KGI・活用セミナーの開催：3回

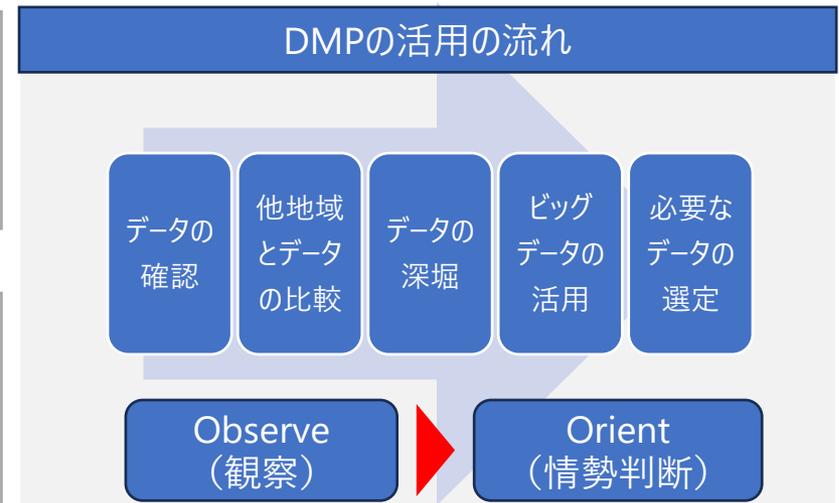
450人27道府県131市町村の参加を頂き、3回のアンケート結果から、必要なデータ・ソリューションの問いには、把握が進み、人流・購買データ分析によるターゲット広告配信や宿泊施設の需要予測、産業連関表における経済波及効果等具体的な施策希望が増えた。その他、勉強会やワークショップに参加した地域数 21都道府県・22市町村

■ 目標

地域の観光事業計画や個別のマーケティング戦略・施策等の策定に際し、全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】の活用
・自治体数：2都道府県74市町村
・活用セミナーの開催：3回

■ 結果

地域の観光事業計画や個別のマーケティング戦略・施策等の策定に際し、全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】の活用
・自治体数：14道府県36市町村
・活用セミナーの開催：3回（450名、27道府県・131市町村）



3.実証事業

6.実証2 全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】による地域と連携した実証事業

(1) 連携事業の概要

日本観光振興協会事業「地域の観光DXに資するアドバイザー派遣事業」と連携し、4県の実証事業を行い成功事例を創出します。現在のデータ活用の状況、課題を取りまとめ後、全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】を活用した戦略を進めます。

1) 目的 DMP構築により、全国各地域の関係者、観光関連事業者によるデータ活用を推進し、各地域での観光を起点とする地域活性化の支援を後押しします。

地域及び地域の事業者が自発的にマーケティングデータを分析・活用し、独自のターゲット戦略やポジショニング、マーケティング施策に活用し、OODA（ウーダ）のループを回すことを目指す。

2) 支援内容 2年間の助言・伴走支援

1年目 全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】の活用と助言、伴走支援

2年目 高度化地域DMP【拡張機能】の活用と助言

1年目の戦略策定を基本に、具体的な施策へ進めます。実証地域は1市町村以上

3) 重点エリア

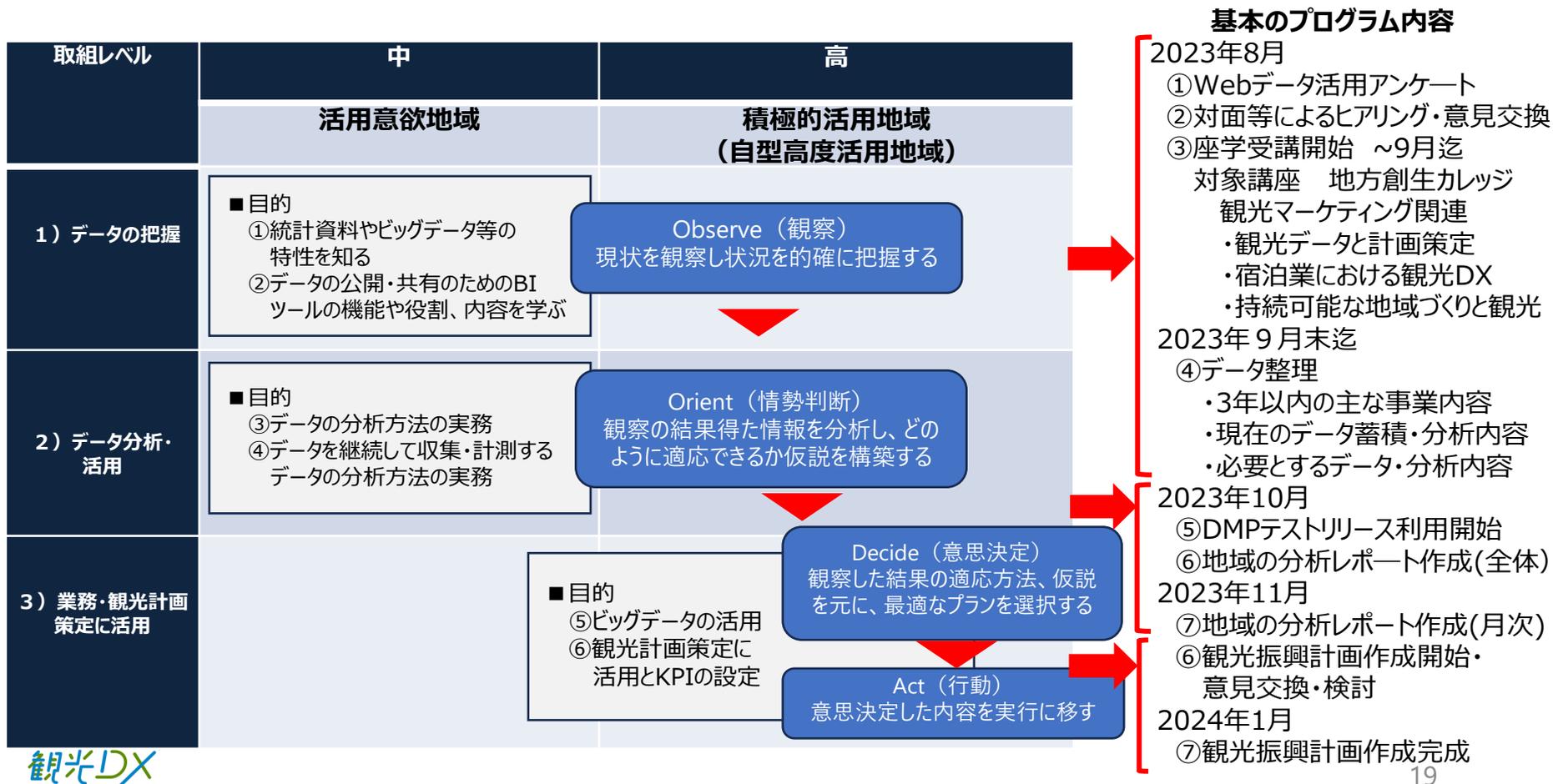
エリア名	群馬県	埼玉県	千葉県	長崎県
データ活用度	高	中	中	中
実証内容	1年目 全国観光DMP・地域DMO【基本機能】は市町村と共有・活用 2年目の事業を含めた観光振興計画策定			
重点エリア	みなかみ町・みどり市	秩父市、横瀬町、皆野町、長瀨町、小倉野町	成田市	長崎市・雲山市・佐世保市・五島市

3.実証事業

6.実証2 全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】による地域と連携した実証事業

(2) 取組内容

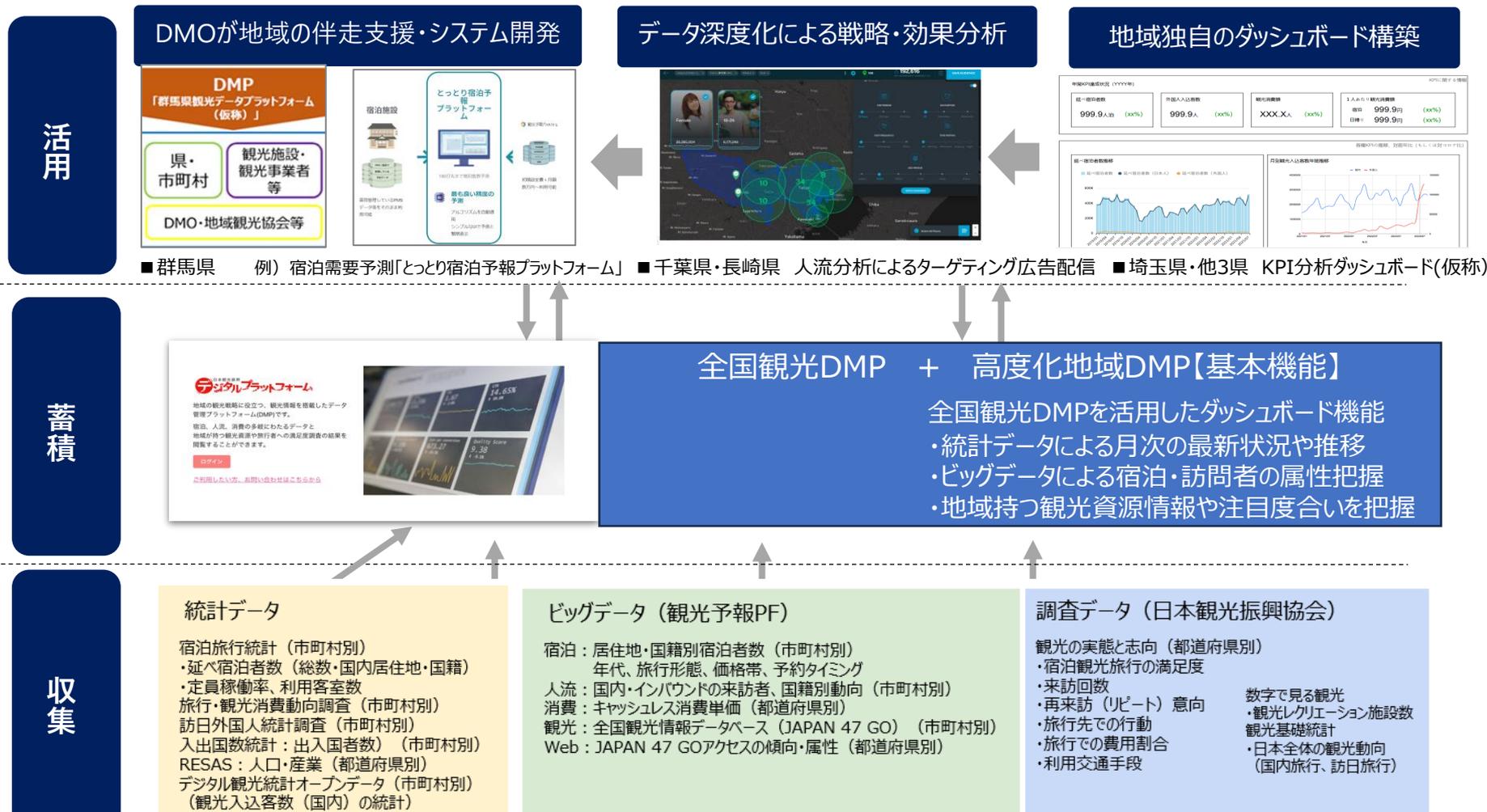
実証1の活用プログラムに沿って、1年目の取組を行います。OODAループのDecide（意思決定）により来年度施策の仮説を基に観光振興計画を策定します。「データ活用レベル高」の群馬県は、データ把握・分析の再確認により他3県と同様に、「取組レベル中」からスタートします。



3.実証事業

6.実証2 全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】による地域と連携した実証事業

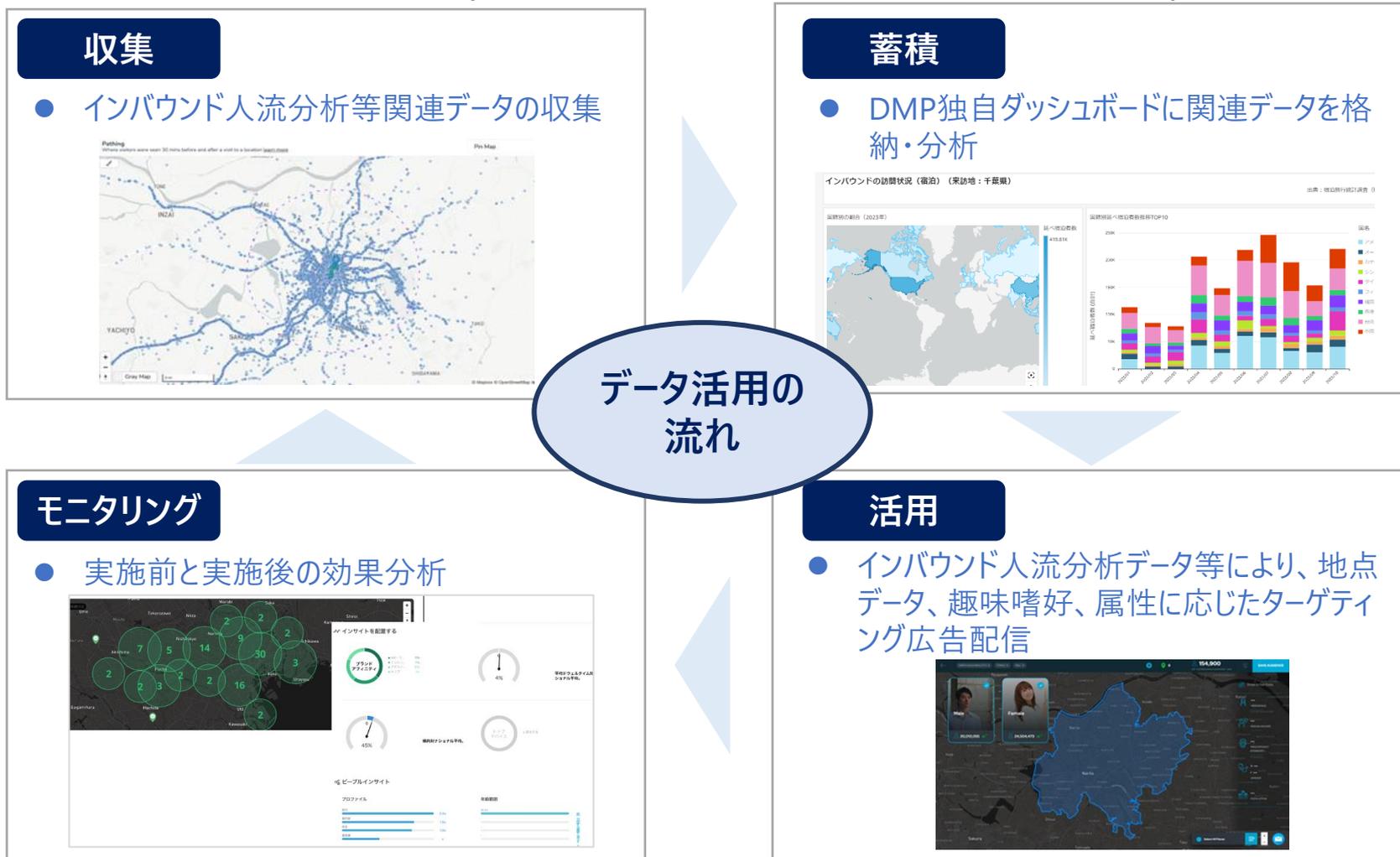
データ活用の流れを示します。活用部分は今後のイメージです。



3.実証事業

6.実証2 全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】による地域と連携した実証事業

データ活用の流れを示します。今後の千葉県・長崎県の活用イメージです。



4.総括

2.実証地域 (1) 群馬県 【データ活用度：高】

群馬県・公益財団法人群馬県観光物産国際協会

実証事業による地域の変化を示します。

地域名

1年目：県内全域、2年目：県内全域、重点エリア：みどり市・みなかみ町

①データの活用

■実証前

- 各種データの一元集約化、次のステップとして、DMP・BIによる可視化を検討
- 人流ビッグデータ分析、アンケート調査結果をレポート化し、協会会員に共有

■実証後

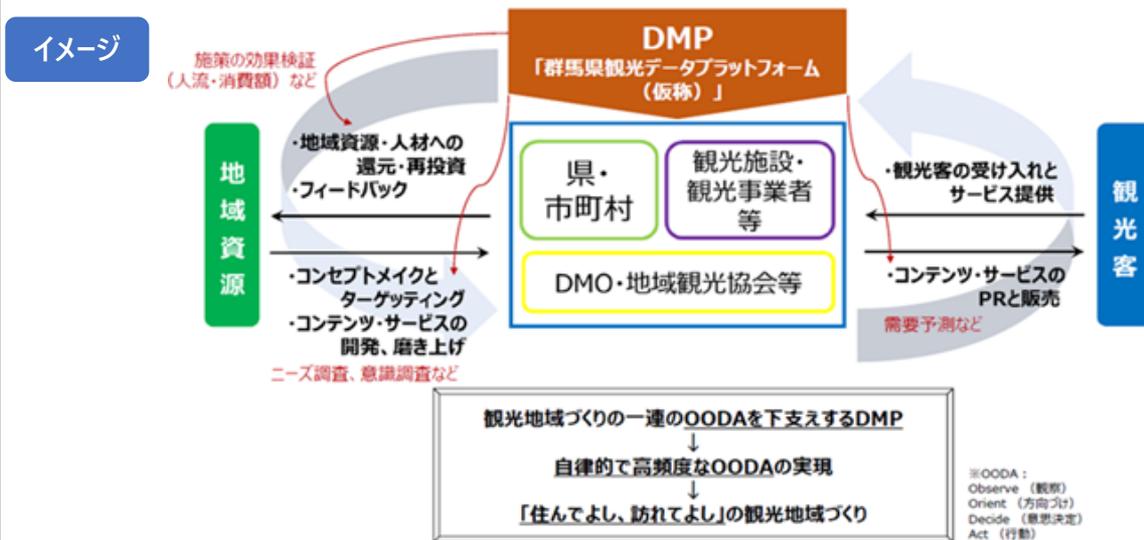
- 全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】を活用したOODAループの実施
- 観光振興計画策定
- 次年度、高度化地域DMP【拡張機能】を活用予定

②今後の方向性

①DMP「群馬県観光データプラットフォーム（仮称）」の構築

蓄積データ（統計・ビッグ・アンケート調査）を市町村別にダッシュボード化、協会会員(自治体・観光協会・事業者等)と共有、OODAループによる活用促進

②データを読み解き、施策に活用とコンテンツやサービス開発による伴走支援 観光関連事業者の収益向上や住民のウェルビーイングを目指す。



4.総括

2.実証地域 (2) 埼玉県 【データ活用度：中】

一般社団法人埼玉県物産観光協会 (DMO)

一般社団法人秩父地域おもてなし観光公社・一般社団法人地方創生パートナーズネットワーク

実証事業による地域の変化を示します。

地域名

1年目：県内全域、2年目：県内全域、重点エリア：秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町

①データの活用

■実証前

- データによるエビデンスが乏しいDMO 戦略
- データマーケティングの取組みが不十分
- 県域DMO としてデータマーケティングの支援が不十分

■実証後

- 全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】を活用したOODAループの実施
- 関係者の定期的なデータの読み解き勉強会を開催
- 観光振興計画策定
- 次年度、高度化地域DMP【拡張機能】を活用予定

②今後の方向性

①埼玉県独自のDMPの構築、DMO・地域関係者のデータ戦略に活用

統計・ビッグデータによる深度化分析を行い、市町村別にダッシュボードを構築、OODAループによる活用促進、観光客の動向・属性分析・可視化
検討中のデータ：統計データの他、複数のビッグデータ 国内・インバウンド人流分析、宿泊動向、SNS口コミ、Webアクセス動向データ等

イメージ

独自ダッシュボードの構築

■KPI分析ダッシュボード (仮)

■属性比較ダッシュボード (仮)



②DMPを活用した秩父地域おもてなし観光公社との連携事業

4.総括

2.実証地域 (3) 千葉県 【データ活用度：中】 千葉県・成田市

実証事業による地域の変化を示します。

地域名

1年目：県内全域、2年目：県内全域、重点エリア：成田市

①データの活用

■実証前

- 県単独でDMPの構築を検討
- 勘と経験に基づく戦略
- デジタル専門人材の不足

■実証後

- 高度化地域DMP【拡張機能】等の活用を検討し、ソリューションを導入
- データに基づくEBPM
- 伴走支援を受け、観光振興計画の策定
- 全国観光DMP等を活用したOODAループの実現

②今後の方向性

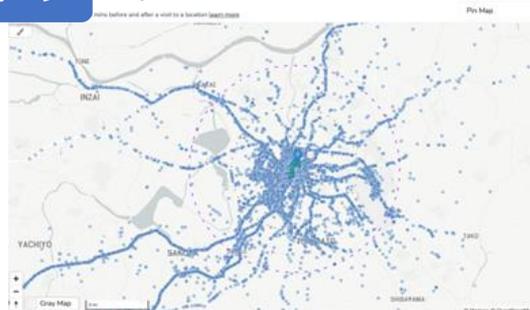
①千葉県独自のDMPの構築 地域関係者のデータ戦略に活用

統計・ビッグデータによる深度化分析を行うための地域専用のプラットフォームを構築、OODAループによる活用促進、観光客の動向・属性分析・可視化
活用予定のデータ：人流分析ビッグデータ、購買動向データ

②人流分析・購買動向ビッグデータの分析に基づくターゲティング広告配信サービスの実施・効果分析

趣味嗜好に合わせた観光情報の配信 実証地域：成田市
混雑回避・周遊策による観光消費の機会損失を防ぎ、滞在時間の延長及び観光消費額の拡大へ

イメージ 例)成田市の移動点群図のイメージ



例)ターゲティング広告配信ツールのイメージ



4.総括

2.実証地域 (4) 長崎県 【データ活用度：中】 長崎県・一般社団法人長崎県観光連盟

実証事業による地域の変化を示します。

地域名	1年目：県内全域、2年目：県内全域、重点エリア：長崎市・佐世保市・雲仙市・五島市
-----	--

①データの活用

■実証前

- 企画立案に必要なデータや分析環境が不十分
- 施策の効果検証が不十分
- 事業者のデータ活用支援、独自DMO構築を検討

■実証後

- 全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】を活用したOODAループの実施
- 観光振興計画策定
- 次年度、高度化地域DMP【拡張機能】を活用予定、ソリューション導入

②今後の方向性

①長崎県独自のDMPの構築 地域関係者のデータ戦略に活用

統計・ビッグデータによる深度化分析を行い、市町村別にダッシュボードを構築、OODAループによる活用促進、観光客の動向・属性分析
検討中のデータ 人流分析ビッグデータ

②人流分析ビッグデータによるターゲティング広告配信

サービスの実施・効果分析

趣味嗜好に合わせた観光情報の配信

実証地域：長崎市・佐世保市・雲仙市・五島市



③観光入込客数調査の自動収集システムの検討

施設からの実績報告を自動化、タイムリーなデータとして戦略に共有、活用



4.総括

1.成果

■ 実証事業の総括

【実証1】KGI・自治体数：2都道府県74市町村

10月末の自治体・観光協会へDMPのリリース後、活用した14府県36市町村がデータ確認・比較等具体的な活用に至った。なお、全国の1741の市区町村に都道府県と同様に案内したが、参加率は低く、KGI達成へ至らなかった。一方、都道府県の活用が14と意識が高く、DMPを把握し、管轄の市町村にも共有したいとの声が多かったことから、来年度以降、都道府県・都道府県観光協会、当協会8支部と連携した定期的なセミナーを開催予定。また、DMPのWebサイトアクセス動向分析の3ヶ月間の結果はユーザー518名、3643PV、一回当たり7PV、平均滞在時間2分34秒と長めの結果となったことから、地域のデータ活用に繋がった。

【実証1】KGI・活用セミナーの開催

450人、27道府県131市町村の参加を頂き、3回のアンケート結果から、必要なデータ・ソリューションの問いには、把握が進み、人流・購買データ分析によるターゲット広告配信や宿泊施設の需要予測、産業連関表における経済波及効果等具体的な施策希望が増えた。その他、勉強会やワークショップに参加した地域数 21都道府県・22市町村

【実証2】成功事例：4件の創出

4県はDMPを活用し、OODAループのDecide（意思決定）により来年度施策の仮説を提案し、観光振興計画を策定した。各県の担当者がObserve（データ観察）→Oriento（情報判断）→Decide（意思決定）から、連携可能なソリューションを活用したイメージが掴めるようになり、4県共に観光振興計画の作成に至った。

KGI

目標値	全国観光DMPを活用した都道府県：2都道府県・74市町村
成果	DMPの活用により、データ活用の取組レベルの向上を図った。

実証内容

目標

結果

頁

実証1

KGI

全国観光DMP・度化地域DMP【基本機能】の構築・活用

地域の観光事業計画や個別のマーケティング戦略・施策等の策定に際し、DMPの活用
・自治体数：2都道府県74市町村
・活用セミナーの開催：3回

DMPの活用
・自治体数：14府県36市町村
活用セミナー：
・3回開催、参加者数450人
(27道府県131市町村)

P.42

実証2

KPI

全国観光DMP・高度化地域DMP【基本機能】による地域と連携した実証事業

自治体・観光協会・DMO等と連携した実証地域
・成功事例：4件の創出

4件の創出
群馬県・埼玉県・千葉県・長崎県
・OODAループの実現
・観光振興計画作成

P.50

6.おわりに

● 実現する世界観

地域が必要とする統計・ビッグ・調査データを「全国観光DMP」に蓄積し、格納を行い、BI機能をもつ「高度化地域DMP」上にて可視化します。それを活用し、地域はデータ戦略に必要なデータを取得し、関係者間での共有、分析し、戦略に活用を促します。

地域観光地経営の高度化
 観光産業の生産性向上
 観光地域づくり・観光産業への参加
 旅行者の利便性向上

持続可能な観光地経営の実現
 スマート観光への実現

※以下のデータセットの内容はイメージです

